

## 「川の再生地域交流会（イン東松山）」運営主体団体からの挨拶

比企の川づくり協議会 事務局長 渡辺仁

本日は、お寒い中ご多忙にも拘わらず、埼玉県環境部水環境課半田課長様、東松山環境管理事務所大気・水質担当堀口部長様外 2 名、東松山県土整備事務所斉藤河川砂防部長外 3 名の方々のご参加を得て『川の再生地域交流会』を開催する運びとなりました。ご参集、有難うございます。

当協会では、本年度より埼玉県水環境課が主催し、埼玉県河川環境団体連絡協議会（略称：埼河連）によって企画された 3 地域（10 / 24 本庄市元小山川、11 / 8 三郷市第二大場川、11 / 17 東松山市市野川）の地域交流会のうち、本日市野川再生交流会の運営主体を担いました。

市の川小学校から市民大学までの河川堤防での散策・見学会、そしてこちらの「きらめき市民大学講堂」へご参集頂きましたが、熊谷市・滑川町・川島町などの近隣市町村からの市民・住民の方々も参加して頂きました。この交流会の大きな目的は、県内の再生活動団体の自主自尊、団体同士の共助の仕組みを模索し、構築していくことにあります。

毎年、年度末の 2 月頃に、さいたま市の会館などで県知事も参加されて、全県の地域から約 800 名の行政担当者・市民が、一堂に会して開催されてきた『川の再生交流会』の地方版が、今年から各地域のミニ交流会として開催される運びになったのです。

主催者は、飽くまで埼玉県水環境課・川の国応援団なのですが、水系や川の特質が異なる地域をひとつくりにには出来ないために、埼河連 6 ブロックを中心としてスケールダウンした見学会・交流会を開こうと企画されたものです。

荒川上流・中流域に位置する比企地域は、外秩父山系の湧水を水源地とする都幾川水系や槻川水系の比較的的自然度の高い中小河川が、松山台地や高坂台地を流下して川島町にて越辺川・入間川と合流します。一方、寄居町のため池（ゴルフ場に隣接）を水源地とする市野川では河床勾配が緩やかであることも加わって、市民や小・中学生が実施する COD パックテストなどでも 5ppm ~ 10 数 ppm 以上と汚濁が進んでおります。

この要因の一つとして、市野川へ直接流入する生活雑排水の問題があります。去る 10 月 12 日に東松山市役所総合会館の多目的ホールにて開催された、「浄化槽フォーラム東松山協議会」でも明らかになりましたが、「単独式浄化槽」の占める割合が、いまだ東松山人口比率でも約 20% と全県レベルでも高く、「合併式浄化槽」への転換や指定業者が行う「11 条検査」の実施向上を図らないと「市野川の再生」は、非常に程遠いことが明らかになっております。15 年先の H37 年には、公共下水道 56%、合併式浄化槽 44%、単独式浄化槽 0% という行政目標が設定されておりますが、着実な進捗を期待するところであります。

市民・住民を対象とした浄化槽や水質汚濁の講習会は、検査や清掃業者も巻き込んだ協議会方式として進め、「きれいな市野川水系の再生」を確立して行って欲しいと願っております。

寒い中で、市野川川岸を見学して頂いた訳ですが、この会場では立正大学の後藤教授が永年滑川町周辺のオオムラサキの生息環境を評価して、川のきれいさを計る研究を行っており、地理情報システム（GIS）で市野川の『きれいさ』を、空中飛翔する昆虫の目から語っていただけそうです。気分を一新してご講演を拝聴して頂ければ幸いです。

最後になりますが、ご講演や行政の方々からの報告に対して、活発な意見交換や討論を期待して、主催者・運営主体団体を代表して「開会の挨拶」とさせていただきます。

（平成 24 年 11 月 17 日 東松山市きらめき市民大学 講堂にて）



参加者は市の川小学校前の堤防周辺に集合し、運営主体団体（埼河連）の山本代表委員から、市野川の概要と散策コースなどの説明を受けた後、河川見学にスタートした（約 20 名）。



市野川の「好感度チェック」を五感で行うため、チェックシートを基に、県水環境課の担当者から、川面を眺め・景観を見渡しながら、「見る・聞く・嗅ぐ・触れる等」の感性を高めている（市野川橋にて）。



埼玉県環境部水環境課半田課長からの、ご挨拶と報告を受ける（きらめき市民大学講堂にて、約 30 名）。



東松山環境管理事務所堀口大気・水担当部長より、市野川・滑川 BOD 年平均値経年変化や、生活排水処理施設整備構想、今後の取り組み施策等の説明を受ける。



東松山県土整備事務所齊藤河川・砂防部長より、市野川・滑川流域の河川改修構想（総合流域防災工事や諏訪堰改良）、市野川水辺空間整備事業（滑川羽尾）等、今後の取組み施策等の説明を受ける。



立正大学後藤真太郎教授より、川のきれいさをはかる指標、多自然川づくりでの再生事業の評価方法、オオムラサキの生息環境評価、里山でオオムラサキを保全する方法など、GIS を活用して講演を受けた。



埼玉県が H23 年度より提唱している「五感による河川環境指標」の集計方法を、水環境課員から説明を受ける。

現地見学会に参加した方々は、それぞれレーダーチャートに取りまとめる手法を学んだ。



河川現地見学会に参加した方々（約 20 名）の好感度を取りまとめたレーダーチャート。

11 月半ばの、4 段階評価による市野川好感度は『3』であった。＜夏場では、このような評価になるかは、大いに疑問だが・・・＞